

ISSN 1881 - 980X

日本科学教育学会  
Japan Society for Science Education  
発行：小川正賢  
事務局：神戸大学大学院  
人間発達環境学研究科 内  
URL：<http://www.jsse.jp>

.....  
2008.4.15

NO.187  
.....

# 科学教育研究レター



## 目 次

- |                                       |   |
|---------------------------------------|---|
| ■ 理事会だより<br>第 230 回理事会議事要録 (案)..... 2 | ■ 研究会・支部だより<br>平成 19 年度<br>第 4 回日本科学教育学会研究会・<br>東海支部会のご案内.....9 |
| ■ 年会<br>第 32 回年会案内 (第 4 次).....4      | ■ 中国支部から：支部総会・支部主催<br>研究発表会のご案内.....10                          |
| ■ インタラクティブセッション・一般研究発表<br>の企画募集中      | ■ 学会員の皆様へ<br>所属の異動などによる個人情報の<br>修正手続きについて.....11                |
| ■ 若手の会<br>「若手の会」開催のご案内..... 8         | ■ 編集委員会だより.....11   |
| ■ 学会賞<br>第 31 回年会発表賞の発表！.....9        | ■ 広報委員会からのお知らせ.....12   |

日本科学教育学会第 230 回理事会議事要録（案）

（議事要録承認前。要点のみ参考掲載）

日時 2008 年 3 月 15 日（土） 14:00～17:00  
会場 （株）内田洋行潮見オフィス 8 F 会議室  
出席者 会長 小川（正）  
理事 磯崎、稲垣、岩崎、大高、小川（義）、小倉、垣花、加藤、小林、猿田、丹沢、  
中山、東原、益子、村瀬、吉村  
監事 松原  
オブザーバー 大木（顧問）、吉川（編集副委員長）

1. 議事要録（案）が承認された。

○第 229 回理事会議事要録（案）の承認について

2. 第 230 回理事会までの電子会議による審議事項

○加藤年会企画担当理事より 1 月 22 日に発議された年会企画委員として余田義彦会員を追加委嘱する件について、審議の結果、承認された（1 月 25 日）。

3. 報告事項

1) 庶務・事務局

○科学技術振興機構より「JREC-IN（研究者人材データベース）」に関する案内を受け付けた（1 月 8 日）。

○年会企画委員の委嘱状を余田義彦会員に発送した（1 月 31 日）。

○株式会社ガリアプラスから、平成 19 年 7 月までレター・総会委任状・学会名簿等の印刷を請け負っていた光和テック社の倒産に伴う債権譲渡に関わる通知（2 月 4 日）および債権確認依頼（2 月 8 日）があり、会長、事務局長、庶務、経理・会員担当、ならび事務支局で協議しつつ対応を行った。

○日本学術会議より「国際コンソーシアムへの取組みについて」に関して問い合わせがあった（2 月 8 日）。

○文部科学省より「科学技術振興調整費平成 20 年度新規課題募集」の案内を受け付け（2 月 14 日）、同日、学会HPに掲載した。

○大阪大学大学院工学研究科より「平成 20 年度（前期）環境リスク管理のための人材養成プログラム受講生募集」の案内を受け付け（2 月 14 日）、同日、学会HPに掲載した。

○学会誌刊行センターより「学会センターニュース No. 397」が届いた（2 月 15 日）。

○科学新聞社より「2008 年学協会退会一覧」が届いた（2 月 15 日）。

○筑波大学より、学会が後援した朝永振一郎記念第 2 回「科学の芽」賞実施報告書を受け付けた（2 月 22 日）。

○財団法人 東レ科学振興会より、「第 48 回東レ科学技術賞・東レ科学技術研究助成」および「第 39 回東レ理科教育賞贈呈式」の案内を受け付けた（3 月 6 日）。

○財団法人 大川情報通信基金より、「2008 年度研究助成応募」および「大川賞・大川出版賞候補推薦」の案内を受け付け（3 月 6 日）、同日、学会HPに掲載した。

○財団法人 日本科学協会より、海洋科学体験研修「研究船で海を学ぼう」の案内を受け付け（3 月 13 日）、同日、学会HPに掲載した。

2) 経理・会員

○入会希望者（～2 月 25 日）の審査について

事務局からの発議により、1 月 19 日までに入会を希望した 7 名を電子会議により審査した結果、全員の入会が承認された（1 月 28 日）。

事務局からの発議により、2 月 25 日までに入会を希望した 4 名を電子会議により審査した

結果、全員の入会が承認された（3月10日）。

事務支局より承認の通知および入会手続きの案内を行い、入会金・年会費の振込が確認された24名（前回理事会未報告3名を含む）が正式に入会となった（3月10日）。

### 3) 機関誌編集

○編集状況についての報告がなされた。

・旧投稿システムでの査読状況

掲載決定論文：20編

第31巻第4号（和文号）内訳：総説・展望1編、研究論文10編、実践論文6編、資料1編、プラザ1編、招待4編

第32巻第1号（和文号）内訳：実践論文1編

査読中論文：4編

・新投稿システムでの査読状況

新規投稿論文（2008.1.16～2008.3.11）8編 内訳：和文7編、英文1編

査読中論文13編 内訳：6編（1回目）、6編（再投稿待ち）、1編（2回目）

掲載決定論文3編 内訳：研究論文2編、プラザ1編

○吉川編集副委員長より、特集テーマとその計画について報告された。

### 4) 国際

○第32回年会における国際交流企画について目下検討中であることが報告された。

### 5) 支部

○次年度における九州・沖縄支部長交代についての報告がなされた。

平成20年4月より沖縄支部長が山口先生から米盛徳市先生（琉球大学）へ交替予定、また次年度（平成20年度）から九州・沖縄支部長が土田先生から米盛先生へ交替予定である。

### 6) 広報

○185号（12月15日発行）、186号（2月15日発行）が発行された。

○4月15日発行予定の187号レターの原稿提出締切は3月31日（月）の予定。

### 7) 年会企画

○年会企画委員会からの年会テーマ及びプログラム案についての報告がなされた。

### 8) 学会賞

○第31回年会発表賞授与候補者について、投票結果（投票数71（昨年度78件）のうち、4票が自薦による対象外で、67票が有効推薦票）に基づき審議されたことが報告された。

### 9) 研究会

○新体制における研究会・支部活動の状況について報告された。

○別刷りの印刷は実施しないことが確認された。

### 10) 学術交流

○教科「理科」関連学会協議会の最近の動向と、CSERSが取り組むべき課題について各学会で議論してほしいとの要請があった旨報告があった。

### 11) 学会IT化

○学会サーバの管理運営を外部に委託する方向であることの報告がなされた。

### 12) 社会貢献

○U-18科学研究コンクールについて、本年開催しないことについて、前回共催のSSISSの大本道則先生に説明がなされたことが報告された。

## 4. 協議事項

### 1) 退会希望者等について

○退会希望者8名が承認された。

＊現在会員数1,270名 年度末退会者8名を含む。

（正会員1,194名、学生会員62名、公共会員1名、賛助会員3名、名誉会員10名）

### 2) 役員選任規定の改定について

○第11条「当選者の決定」の改定について検討され、得票の同数の場合を想定した役員選挙規定の改正がなされることが承認された。

### 3) 役員選挙について

○スケジュール（予定）が承認された。

- ・役員候補者名簿への掲載のお願い（承諾を得る）と選挙公報の原稿依頼を発送 3月24日
- ・投票用紙等の郵送 4月下旬
- ・投票締め切り 5月31日（土）
- ・開票 6月7日（土）

○役員候補者について

- ・会長候補者、理事候補者、監事候補者について検討され、以下のように決定された。

会長候補3名、理事候補27名、監事候補2名

○選挙管理委員として、吉田理事から吉村理事への交替が承認された。

### 4) 年会について

○年会受付システムについて検討され、今年度は現システムを使用することが承認された。

### 5) 31回年会発表賞について

○第31回年会発表賞の決定について審議され、以下の2件に授与されることになった。なお、年会発表賞の受賞資格は会員のみである。

- ・奥山英登・坂東 元・佐賀真一・小菅正夫（旭山市旭山動物園）：旭山動物園と双方向遠隔授業！  
i-ねっとわーく授業デモンストレーション
- ・隅田 学（愛媛大学）・松村暢隆（関西大学）：理科授業で学習困難や才能を示す児童生徒への特別支援の方策に関する研究(2)-困難児における理科の才能特徴-

### 6) 機関誌編集について

○転載許可と機関リポジトリへの対応について検討した。

### 7) その他

○旧研究会より、運営経費の残余資金が寄付された。

次回以降の理事会予定

第231回：2008年6月21日（土）14時から17時 ㈱内田洋行潮見オフィス8F会議室

第232回：2008年8月22日（金）17時30分から18時30分 岡山理科大学

第233回：2008年8月24日（日）未定 岡山理科大学

## 年 会

## 第32回年会案内（第4次）

### 1. 年会テーマ：転換期の科学教育：これからの科学的リテラシー

前回の年会では、「転換期の科学教育」のテーマをもとに、科学教育の新しい研究について議論しました。第32回年会は、新しい研究の方向性の一つとして「科学的リテラシー」に議論の焦点をあてることにしました。科学的リテラシーと数学的リテラシーを調査したPISA2006の結果は、我々にどんな課題を示しているのでしょうか。また、PISA2006の結果を踏まえた中央教育審議会の教育課程部会の答申や、現在審議されている新学習指導要領が示す新しい指針に対して、我々はどのように受け止めれば良いのでしょうか。「知識基盤社会」の時代を担う子どもたちに必要な科学的リテラシーとは何なのか。そして科学好きの子どもたちを育成するためには、科学的リテラシー教育に我々はどのように取り組むべきか。今年会では「科学的リテラシー」をテーマに、これからの科学教育のあり方を議論します。

2. 期 日：平成20（2008）年8月22日（金）～24日（日）

3. 会 場：岡山理科大学 25号館、21号館

〒700-0005 岡山市理大町1-1

- ・アクセス：岡山駅西口を出て、岡電バスの岡山理科大学行に乗車して、終点にて下車（約20分、料金190円）

<http://www.ous.ac.jp/summary/access.html>

4. 主 催：日本科学教育学会  
(後援 [予定]：文部科学省、岡山県教育委員会、岡山市教育委員会、共催は未定)
5. 年会実行委員会  
[委員長] 宮地 功 (岡山理科大学)  
[委 員] 野瀬重人 (岡山理科大学)、洲脇史朗 (岡山理科大学)、浦上澤之 (岡山理科大学)、  
山本健治 (倉敷芸術科学大学)、仁宮章夫 (吉備国際大学)、柿原聖治 (岡山大学)、  
秋吉博之 (就実大学)
- 連絡先：〒700-0005 岡山市理大町 1-1  
岡山理科大学 総合情報学部 情報科学科 宮地 功  
Tel & Fax (086) 256-9651、E-Mail : [miyajji@mis.ous.ac.jp](mailto:miyajji@mis.ous.ac.jp)
6. 発表申込期限と申込先：  
1) 自主企画課題研究：受付終了  
2) ワークショップ：受付終了  
3) 一般研究発表：平成 20 年 5 月 26 日 (月) ~ 6 月 15 日 (日) > 年会用 WEB (後日お知らせ  
します。)  
4) インタラクティブセッション：平成 20 年 5 月 31 日 (土) まで > [jisse-interactive@freeml.com](mailto:jisse-interactive@freeml.com)
7. 発表原稿の提出期限：平成 20 年 6 月 15 日 (日)
8. 発表原稿の提出先：  
1) 学会企画シンポジウム：年会企画委員長 (佐伯昭彦) : [saeki@neptune.kanazawa-it.ac.jp](mailto:saeki@neptune.kanazawa-it.ac.jp)  
2) 実行委員会企画シンポジウム：実行委員会事務局長 (野瀬重人) : [nose@dap.ous.ac.jp](mailto:nose@dap.ous.ac.jp)  
3) 学会企画課題研究発表：各オーガナイザー  
4) 自主企画課題研究発表：各オーガナイザー  
5) ワークショップ：取りまとめ担当者 (角、竹中、中原)  
6) 一般研究発表：年会 WEB  
7) インタラクティブセッション：取りまとめ担当者 (舟生、久保田、森本)
9. 参加申込：  
1) 参加の WEB 申込期間：平成 20 年 5 月 26 日 (月) ~ 8 月 2 日 (土)  
2) 参加費：一般会員：7,000 円、学生会員：5,000 円 (年会論文集代を含む) の予定。懇親会は  
一般・学生会員とも 5,500 円の予定です。  
★年会費の早割り期限 (500 円引き) 7 月 25 日 (金)  
3) 振込先：  
【郵便振替口座】 番号：01340-6-46132  
名義：日本科学教育学会第 32 回年会実行委員会 (代表 宮地 功)  
【銀行口座】 中国銀行 法界院支店 番号：普通 1875351  
名義：日本科学教育学会第 32 回年会実行委員会 (代表 宮地 功)
10. 日 程 (予定)：  
※次頁にタイムテーブルを掲載
11. 内 容：次の内容を予定しています。  
1) 学会企画シンポジウム：  
テーマ：「科学的リテラシー向上へ -科学教育学会に求められるもの-」  
趣 旨：PISA や中教審の答申、さらに新学習指導要領などにおいて読解力もさることなが  
ら科学的リテラシーの低下が話題になっている。このような環境の中、向上のための対策を主  
要な課題として持っていた学会として何ができるのか、何をすべきなのかを様々な観点から提  
供してもらい、議論する。  
司 会：吉川 厚 (教育測定研究所)

	平成20年8月22日		平成20年8月23日		平成20年8月24日		平成20年8月25日		
0830-0845			受付		受付		エクスカージョン		
0845-0900									
0900-0915									
0915-0930	受付		実行委員会企画シンポジウム[大木道則](2時間)	一般研究発表(2時間)	学会企画課題研究(2時間) 2企画	自主課題研究発表(2時間) 3企画			
0930-0945									
0945-1000									
1000-1015	一般研究発表(2時間)	国際交流企画(2時間)							
1015-1030									
1030-1045									
1045-1100									
1100-1115			合同会議(1時間)		休憩(30分)				
1115-1130			休憩(15分)		科学教育研究セミナー[中山迅](45分)				
1130-1145			若手の会[基食付](1時間45分)		科学教育研究セミナー[竹中真希子](45分)				
1145-1200			インターラクティブ+ワークショップ(1時間45分)						
1200-1215	昼食、各委員会(1時間)		昼食、各委員会(1時間)		昼食、各委員会 新理事会(1時間)				
1215-1230									
1230-1245			休憩(15分)						
1245-1300									
1300-1315	学会企画課題研究(2時間) 3企画	自主課題研究発表(2時間) 3企画	総会/表彰(1時間30分)		一般研究発表(2時間)	自主課題研究発表(2時間) 2企画			
1315-1330									
1330-1345									
1345-1400					休憩(30分)				
1400-1415									
1415-1430									
1430-1445									
1445-1500									
1500-1515	休憩(30分)								
1515-1530									
1530-1545	一般研究発表(2時間)	自主課題研究発表(2時間) 2企画	学会企画シンポジウム(2時間30分)		実行委員会・企画委員会 合同会議(1時間)				
1545-1600									
1600-1615									
1615-1630									
1630-1645									
1645-1700									
1700-1715									
1715-1730	休憩(15分)								
1730-1745									
1745-1800	理事会(1時間)	ウエルカムパーティ(2時間)	移動(30分)						
1800-1815									
1815-1830									
1830-1845									
1845-1900									
1900-1915									
1915-1930									
1930-1945									
1945-2000									

3日間を通して終日、企業展示

- 発表：1. 学会関係：小倉 康（国立教育政策研究所）  
2. マスコミ関係：交渉中  
3. 官庁関係：二村村森（経済産業省・産業技術環境局・大学連携推進課）  
4. 「科学技術の智」プロジェクト委員長：北原和夫（国際基督大学）

2) 実行委員会企画シンポジウム：

テーマ「理科教育改革支援—SSISSの狙いと戦略」

趣旨：NPO法人「理科教育改革支援」は、平成17年にその設立が認証されてから、3年度目を終わろうとしている。この間、主として、元研究者であった科学者を学校に派遣して、理科、特に科学研究の面白さを子供にも知ってもらい、科学の持つ楽しさ、興味深さに触れてもらうことを目標とした活動を行っている。幸いにして、かなりの学校現場からの理解も得られ、科学者会員も100名を数えるレベルまで増加し、活動学校数も、3年度間の累積で、50校を越す実績が得られた。しかし、SSISSの前途は順風満帆かという、まだ解決しなければならぬ問題が、山ほどあるというのが現状である。この討論会は、SSISSの現況を会員諸氏に紹介してご討論を願い、この運動のさらなる発展のために、会員諸氏からの、有益な示唆を得るために開くものである。

オーガナイザー：大木道則（岡山理科大学）

司会：野瀬重人（岡山理科大学）

討論のための話題提供者：熊野善介（静岡大学）、村山哲哉（東京都墨田区教育委員会）、山口 毅（東京都中野区立北中野中学校）

### 3) 学会企画課題研究発表 :

以下のテーマの具体化を進めています。

- ① 数学的リテラシー関係のテーマ (オーガナイザー: 清水美憲)
- ② 科学的リテラシー関係のテーマ (オーガナイザー: 田代英俊)
- ③ 情報リテラシー関係のテーマ (オーガナイザー: 加納寛子)
- ④ 高等科学教育関係のテーマ (オーガナイザー: 鈴木 誠)
- ⑤ 持続可能な社会のための科学教育関係のテーマ (オーガナイザー: 加藤 浩、荻原 彰)

### 4) 自主企画課題研究発表 (審査中) :

以下に公募された企画を示します。これらの企画の受理については、年会企画委員会で審査中です。

- ① eラーニングと連携したブレンディッド授業の実践と効果: 宮地 功 (岡山理科大学)
- ② 数学教育での問題解決におけるテクノロジーの利用と創造性の育成: 垣花京子 (筑波学院大学)、渡辺 信 (東海大学)
- ③ 科学教育における学校現場での『学び合い』研究の最前線: 三崎 隆 (信州大学)
- ④ 理科ねっとわーくを用いた中高での理科授業: 川村康文 (東京理科大学)
- ⑤ 新しい時代の統計教育の方向性を探る (2): 青山和裕 (鳴門教育大学)
- ⑥ これからの学校教育における説明・証明研究の展望: 宮崎樹夫 (信州大学)、茅野公穂 (国士舘大学)
- ⑦ 生涯学習社会における数学的リテラシー構築のための開発研究: 岩崎秀樹 (広島大学大学院)
- ⑧ 研修会づくりから連携を考える: 小田泰史 (蒲郡市立蒲郡中学校)、郡司晴元 (茨城大学)
- ⑨ 新しい理科教育における評価規準を考える: 鈴木 誠 (北海道大学)
- ⑩ 動物園におけるロケーションアウェアネスを活用した実践研究: 嶋野逸生 (神戸大学)

### 5) 招待講演「科学教育研究セミナー」:

特定の分野でアクティブに研究されている先生方をお招きし、会員向けに専門的なお話を聞かせていただく招待講演です。学会論文賞を受賞されました (1) 中山 迅先生 (宮崎大学)、(2) 竹中真希子先生 (大分大学) のお二人を予定しています。

### 6) ワークショップ

新しい学習指導法、実験方法、研究方法などを体験的に学べる企画です。

### 7) 一般研究発表

発表時間は1件につき20分 (発表15分・質疑5分) を予定しております。

- ・ 発表申込みと原稿受付期間: 平成20年5月26日 (月) ~ 6月15日 (日)
- ・ 原稿締切: 平成20年6月15日 (日)
- ・ 原稿提出先: 年会 web
- ・ 筆頭発表者資格: 筆頭発表者は会員でなければなりません。筆頭発表者での発表件数は1件です。

### 8) インタラクティブセッション [公募中] :

研究内容についてインタラクティブにじっくりと語り合う場です。例えば、(1) アイディアは新しいが検証の途上である研究、(2) 新規性に欠けるが教育実践上有効性が高い研究、など、萌芽的な研究やチャレンジングな研究について語り合う形式が考えられます。また、教育実践の場で直ちに使える有効な実験方法や道具について、実演を通して語り合う形式も考えられます。セッションは2時間程度の時間を準備しますので、十分に時間をかけてインタラクティブに語り合う事ができます。

- ・ 企画受付締切: 平成20年5月31日 (木): 仮のものでもかまいませんので、テーマ名、担当者名、概要、連絡先をお知らせ下さい。申込みの際には、インターネット利用の有無、電源利用の有無、その他の希望を明記して下さい。ただし、条件によってはご希望に添いかねることもあります。
- ・ 企画応募先: [jsse-interactive@freeml.com](mailto:jsse-interactive@freeml.com)
- ・ 原稿締切: 平成20年6月15日 (日)
- ・ 筆頭発表者資格: 筆頭発表者は会員でなければなりません。

#### 9) 若手の会

「若手の会」の幹事を中心に企画を計画中です。詳しい内容及び参加申込等については、本レター内の「若手の会」の項目をご参照下さい。

#### 10) その他の企画：

以上の研究発表等の他に、総会、会合や懇親会、理事会や各種委員会等が開催されます。

#### 12. エクスカーション：現在検討中です。

#### 13. 宿泊の斡旋：

近畿日本ツーリスト(株)岡山支店に斡旋をお願いしました。岡山では各種学会が同時期に開催されますのでたいへんな混雑が予想されます。

下記のURLに①宿泊の案内、②申込み用紙、③ホテル・会場の地図が掲載されていますので、早期の申し込みをお願いいたします。

<http://certcms.shinshu-u.ac.jp/jsseam/modules/note1/index.php?id=19>

#### 14. 懇親会

岡山プラザホテルで懇親会を開催します。立食パーティです。会員の皆様の懇親を深めるために、多数の参加をお願いします。参加者の方には会場までバスを用意します。

日 時：8月23日(土) 18時～20時

会 場：岡山プラザホテル(〒703-8256 岡山市浜2-3-12、086-272-1201)

会 費：5,500円

#### 15. ウェルカムパーティ

初日に岡山理科大学11号館8階ラウンジにてウェルカムパーティを開催します。参加申し込みを当日受け付けます。準備の都合上、8月22日の午前中に会費を払われた方を優先します。会費を500円として、一人当たり1,500円程度の飲み物と料理を準備します。その差額の一人当たり1000円を実行委員会が支出します。夕食の代わりと思って、多数の参加をお願いします。

日 時：8月22日(金) 17時30分～19時30分

会 場：岡山理科大学 11号館 8階 ラウンジ

会 費：500円

## 若手の会

## 「若手の会」開催のご案内

■日 時：8月23日(土) 11時15分～12時45分

■開催形式：中国支部との共同企画・開催(別冊の冊子を作成する)

■内 容：1) 研究発表(ラウンドテーブル)

2) 講 演 (予定)

\* 第32回年会「若手の会」企画担当委員：

加納寛子(山形大学) [kanoh@kdeve.kj.yamagata-u.ac.jp](mailto:kanoh@kdeve.kj.yamagata-u.ac.jp)

岸本忠之(富山大学) [kisimoto@edu.toyama-u.ac.jp](mailto:kisimoto@edu.toyama-u.ac.jp)

清水欽也(広島大学) [kinyas@hiroshima-u.ac.jp](mailto:kinyas@hiroshima-u.ac.jp)

松浦拓也(広島大学) [takuyam@hiroshima-u.ac.jp](mailto:takuyam@hiroshima-u.ac.jp)

三宅志穂(高知大学) [smiyake@cc.kochi-u.ac.jp](mailto:smiyake@cc.kochi-u.ac.jp)





第31回年会（2007年）発表賞の受賞者が決定いたしました。

①受賞者：奥山英登（旭川市旭山動物園）

対象研究発表：奥山英登、坂東 元、佐賀真一、小菅正夫「旭山動物園と双方向遠隔授業！  
i-ねっとわーく授業デモンストレーション」

②受賞者：隅田 学（愛媛大学教育学部）

対象研究発表：隅田 学、松村暢隆「理科授業で学習困難や才能を示す児童生徒への特別支援  
の方策に関する研究(2)－困難児における理科の才能特徴－」

今回は、推薦書式を簡略化して、より多くの推薦票の回収に努力いたしましたが、推薦総数は71票と前回の78票よりも7票減少しました。年会への参加者数が減少したためと考えられます。但し、一昨年48票よりも引き続き多くの推薦をいただきました。会員の皆様のご協力に感謝申し上げます。選考委員会において、「会員からの推薦（自薦を含まない）」との規程により、有効票を整理した後、最高得票数6票の発表が1件、次いで4票の発表が1件、3票の発表が1件、その他は2票以下の得票でした。これら3件の発表を行った学会員について慎重に審議し、候補者を選び、第230回理事会の議を経て年会発表賞受賞者を決定いたしました。奥山、隅田両会員、おめでとうございます。

なお、本年度のその他の各学会賞候補者については、現在、推薦の受付期間中です。多くの学会員からの推薦がなされることを期待しておりますのでよろしくご協力のほどお願いいたします。詳細は前号レターをご覧ください。 (学会賞担当理事 吉村忠与志、小倉 康)

## 研究会・支部だより

### 平成19年度第4回日本科学教育学会研究会・東海支部会のご案内

東海支部からのお知らせです。平成19年度第4回研究会を、下記の通り開催いたします。ご参加のほど、よろしくお願い申し上げます。

[テーマ] 科学教育の未来を考える

[主催] 日本科学教育学会東海支部

[日時] 平成20年6月14日(土) 9:00～16:00(時間の詳細は未定)

[会場] 静岡大学教育学部G棟(予定)

[発表申込・申込切]

- ・発表を希望される方は、以下の項目について明記したE-Mailを担当まで送付ください。  
「氏名、所属、発表題目、E-Mailアドレス、電話番号、連絡先住所、発表使用機器」
- ・申込締切は、平成20年5月8日(木)です。
- ・発表原稿様式等については、発表申込のあった方にE-Mailにてお知らせいたします。
- ・発表内容は、科学教育に関わる全般について募集いたします。

[原稿送付切] 平成20年5月30日(金) 必着

[参加] 発表の有無にかかわらず参加できます。会員でない方も参加できます。

[参加費] 学会員は無料、学会員でない方は500円です。

[担当・連絡先]

静岡大学教育学部 丹沢哲郎

〒422-8529 静岡市駿河区大谷836

Tel & Fax: 054 (238) 4238、E-Mail: [edttanz@ipc.shizuoka.ac.jp](mailto:edttanz@ipc.shizuoka.ac.jp)

## 中国支部から：支部総会・支部主催研究発表会のご案内

中国支部長 宮地 功 (岡山理科大学)

中国支部では地域の科学教育研究の発展をねらいに、支部主催の研究発表を開催します。つきましては、中国支部の方はもとより、他支部の方にも参加していただきたく、広く会員の方々に科学教育に関連した研究についての研究発表を募集します。多くの方々に是非ご参加をお願いいたします。

主 催：日本科学教育学会中国支部

後 援：広島県教育委員会 (予定)

日 時：平成 20 年 6 月 21 日 (土) 13 時 00 分～17 時 30 分

会 場：県立広島大学広島キャンパス (〒734-8558 広島市南区宇品東 1 丁目 1-71)

アクセス：[http://www.pu-hiroshima.ac.jp/05\\_campus/08\\_access/index.html](http://www.pu-hiroshima.ac.jp/05_campus/08_access/index.html)

広島駅から、【バス】広島バス「31号(翠町)線」にて「県立広島大学前(広島キャンパス)」下車ー徒歩1分、【市内電車】[5番線] 広島港(宇品)行きにて「県病院前」下車ー徒歩7分

参加費：無料(ただし、資料代1,000円)

事務局：日本科学教育学会中国支部 宮地 功 (岡山理科大学)

お問合せ先：藤井浩樹 (県立広島大学)

Tel：082-251-9826、E-Mail：[hfujii@pu-hiroshima.ac.jp](mailto:hfujii@pu-hiroshima.ac.jp)

内 容：会員による研究発表、及び文部科学省「理数大好きモデル地域事業」の成果発表

※研究集会の開始前12時30分から、中国支部の総会を予定しています。支部の学会員の方はご参加をお願いいたします。また、終了後には懇親会を予定しています。

【研究発表の申し込み】下記の項目を記載してご送付ください。

項 目：(1) 発表題名、(2) 発表者名(登壇者に○)、(3) 所属、(4) 連絡先住所、氏名、電話番号、電子メール、(5) その他、発表に関する要望、(6) 中国支部懇親会への参加・不参加

締 切：平成 20 年 5 月 9 日 (金)

送付先：藤井浩樹 (県立広島大学) ([hfujii@pu-hiroshima.ac.jp](mailto:hfujii@pu-hiroshima.ac.jp))

【研究発表会講演論文集の原稿の提出】下記の形式で研究発表会講演論文集の原稿を作成してご送付してください。

原稿形式：A4用紙2頁、4頁、あるいは6頁。縦書き。用紙の上下25mm、左右に20mmずつの余白を取る。発表題名、英文題名、著者名(登壇者に○)、英文著者名、所属、英文所属、要約、キーワード、本文、参考文献の順に書く。発表題目からキーワードまでは段組なしで、発表題目から英文所属までをセンタリング。本文及び参考文献は2段組で、1頁45行程度、1行25文字程度とする。論文題名のフォントは14ポイントのゴシック体、章節のタイトルのフォントは10.5ポイントのゴシック体、本文のフォントは10ポイントの明朝体にする。

送付方法：郵送、あるいはE-Mailの添付ファイル(ワード・一太郎)

締 切：平成 20 年 5 月 31 日 (土)

送付先：〒734-8558 広島市南区宇品東 1 丁目 1-71 県立広島大学人間文化学部 藤井浩樹 ([hfujii@pu-hiroshima.ac.jp](mailto:hfujii@pu-hiroshima.ac.jp))



## 学会員の皆様へ

### 所属の異動などによる個人情報の修正手続きについて

学会事務局

昨年10月から、庶務、会員・経理、編集等の事務局業務を中西印刷株式会社に業務委託しております。それに伴い、会員データベース・システムも中西印刷株式会社学会部に設ける学会事務支局において管理していただく体制になりました。あわせて、同社の個人情報保護ポリシーに基づき、学会 web に掲載されていた会員専用ページが廃止されました。

会員専用ページにおいて各会員が行っていた所属の異動などによる個人情報の修正は、中西印刷株式会社学会部内の学会事務支局にて行いますので、下記宛に随時ご連絡ください。

-----  
日本科学教育学会事務支局  
〒602-8048 京都市上京区下立売通小川東入  
中西印刷株式会社 学会部内  
TEL：075-415-3661 FAX：075-415-3662  
E-Mail：学会 web の問い合わせページ（事務局（庶務）宛の web メール）  
をご利用ください。  
-----

## 編集委員会だより

編集委員会は、前回のレター発行から平成19年度第4回編集委員会（平成20年3月15日（土）11時00分～14時00分）が、（株）内田洋行潮見オフィスにおいて開催されました。平成19年度第3回編集委員会議事録の確認と編集状況は以下の通りです。現在、旧投稿システムと新投稿システムが同時に動いております。

旧システム：掲載決定論文：第31巻第4号（和文号）20篇（総説・展望1篇、研究論文10篇、実践論文6篇、資料1篇、プラザ1篇、ほか招待論文5篇）、第32巻第1号で1篇  
審査中論文：4篇

新システム：新規投稿論文（2008.1.16～2008.3.11）：8篇（内訳：和文7篇、英文1篇）  
査読中論文が13篇（内訳：6篇：1回目、6篇：再投稿待ち、1篇：2回目）  
掲載決定論文が3篇（内訳：研究論文2篇、プラザ1篇）

新投稿システムは使いにくい点などいくつかの問題もありますが、皆様のおかげで、比較的順調に審査が進んでおります。つづいて次の2件について審議いたしました。

1. 機関リポジトリへの対応について：中山理事の作成した資料をもとに議論し、理事会に提案し、学会としての決定に従いながら、さらに審議することになりました。
2. 20年度の特集テーマと計画について：計画内容、および、吉川編集副委員長を部会長とし、本年度と同様、特集編集部会を作り、審査、編集に当たることが了承されました。

**タイトル：「科学的リテラシー」**

**趣旨：**理科離れや学力低下の言葉が聞かれて久しい。PISAに参加して以来、科学的リテラシーと数学的リテラシーは、低下の傾向をたどっている。また、PISA2006の結果を踏まえた中央教育審議会の教育課程部会の答申や、新学習指導要領案が示す新しい指針に対して、学会としてどのような受け止め方を返すのか真剣に考えないといけない岐路に立っている。

このような状況の中で、我々自身が直面する課題を学会として見据えていくために、「科学的リテラシー」を改めて捉え直す。すなわち、「知識基盤社会」の時代を担う子どもたちに必要な科学的リテラシーとは何なのか。欧米では知識階級の象徴でもある科学好きを育成するためにはどうすればいいのか、科学的リテラシー教育に学会としてどのように取り組むべきか。この

ような「科学的リテラシー」を様々な観点で議論する。

公募期間：2008年4月頃～7月末

審査期間：投稿され次第はじめ、最後は、11月の編集委員会において事実上掲載が考えられる範囲を決定する

最近1年間の学会誌の編集状況は下の表の通りです。皆様の積極的なご投稿をお待ちしております。編集委員会に対するご意見等がございましたらお知らせ下さい。

以上

「科学教育研究」投稿状況および掲載決定状況（平成20年3月11日現在）

年 月	新規投稿論文数（篇）		掲載決定論文数（掲載号）		掲載拒否（辞退） 論文数
	和 文	英 文	和 文	英 文	
2007年					
4月	3		2 (31-2)		
5月	7				(1)
6月	19			1 (31-3)	(2)
7月	5	1			(1)
8月	1		4 (31-4)		4 (3)
9月			1 (31-4)		2
10月	1	1	2 (31-4)		2 (2)
11月	1	1	8 (31-4)		1 (1)
12月	6	1	4 (31-4)		1 (2)
2008年					
1月	2	2	3 (32-1)		1 (1)
2月	4	1	1 (32-1)		2
3月	1				1

広報委員会からのお知らせ

科学教育研究レター第187号をお送りいたします。お気づきの点などございましたら、学会webサイトにある「お問い合わせ」（webメール）をご利用のうえ、お知らせください。

担当理事：磯崎哲夫（広島大） 東原義訓（信州大）  
 委 員：加藤久恵（兵庫教育大） 久保田英慈（愛知産業大三河中） 清水欽也（広島大）  
 杉本雅則（東京大） 二宮裕之（埼玉大） 森山 潤（兵庫教育大）  
 山口悦司（宮崎大）  
 幹 事：平野俊英（愛知教育大）

科学教育研究レター 編集・印刷

日本科学教育学会広報委員会

日本科学教育学会

Japan Society for Science Education

URL：http://www.jsse.jp

□事務局 神戸大学大学院人間発達環境学研究科 内

□事務支局（入退会・会費・学会誌発送関連）TEL：075-415-3661 FAX：075-415-3662

E-mail：jsse@nacos.com

中西印刷（株）学会部 内 〒602-8048 京都市上京区下立売通小川東入ル

□編集事務局（論文投稿・査読編集）TEL：075-415-3155 FAX：075-417-2050

E-mail：jsse-hen@nacos.com

中西印刷（株）学会部 内 〒602-8048 京都市上京区下立売通小川東入ル

郵便振替口座：00170-6-85183 日本科学教育学会

銀行口座：みずほ銀行 京都中央支店 普通 2269008 日本科学教育学会